

鎌倉女子大学・鎌倉女子大学短期大学部 一行研究紹介

2023年度

鎌倉女子大学の先生方が行っている研究を1行でご紹介します。



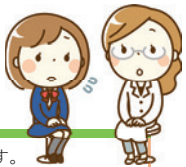
鎌倉女子大学では、どんなことを研究しているのだろう？

ア行	
相澤昭宏	まちの人や地域とつながり、子供が本気になって取り組む学びとは？生活科や総合的な学習の時間を中心に、単元のつくり方や授業の在り方を考える。
青山真以子	「音楽を通してつながろう」をテーマに、子どもの音楽的な行動に焦点をあてつつ、多様な音や楽器、音楽との出会いを目指した演奏活動を展開している。
秋田正治	お腹の中にいる赤ちゃんの健康を守るため、お母さんの食べ物、飲み物そして薬などの安全性について考える。
浅井拓久也	専門は保育学です。研究テーマは保育者のキャリア形成です。社会活動として保育者や保護者対象の様々な研修会・講演会の講師を担当しています。
浅田祐一	スポーツ栄養やライフステージ別の栄養についての研究、またそれらの対象者に対する効果的な栄養教育方法の探求。
飯田篤司	愛、正義、価値、感情、神…こうした哲学や宗教、倫理などに纏わる「目には見えないもの」を現代において語ることに、どのような意味があるのか？
飯村敦子	特別な支援ニーズを有する子どもの発達や臨床に関わる基礎的研究、ムーブメント教育・療法による子どもと家族の支援に関する実践的研究に取り組んでいる。
石井健士	ヒトの老化や神経変性疾患を引き起こす酸化ストレスに対して人体を守るために働いている生体防御機構を解明するため分子レベルでの研究を行なっている。
石川満佐育	子どもたちの成長と発達を支えるため、子どもたちを支援する教職員、保護者、地域を支えるために何ができるか、学校心理学の観点から検討しています。
市川道伸	鎌倉の歴史・文化の研究。歴史上の史跡が多い武家の古都であるとともに、新たな産業や文化、情報を発信する現代的な都市でもある「鎌倉の魅力」を探究。
伊藤嘉奈子	学級集団に行く心理教育プログラムの研究。大学生が高校生に、高校と大学の違い等について話したり質問に答えたりする「ピア・メンタリング活動」を研究。
伊藤太二	血液中や唾液に含まれるマイクロRNAという物質を解析して、生活習慣病の発症・増悪予防やスポーツパフォーマンス向上を目指した研究を行っています。
稲川英嗣	学校教育を支える教育制度や教育行政の仕組みについて研究しています。現代の教育が何を課題として、どんなことに取り組もうとしているのか分析しています。
岩田建	微生物学、基礎栄養学、食品学実験・実習、フードスペシャリスト論、フードビジネス論などの授業を担当。食品を中心としたマーケティングを研究中。
上田陽子	保育実践のフィールドワークを通し、子どもの主体的・創造的な学びを育む保育や保育者の幼児理解の過程について、保育者との協働性に基づき研究を進める。
漆間浩一	楽しく納得できる社会科教育法の研究と地形図を活用した社会科の授業づくりの研究。
榎本至	水球競技を対象としたゲーム分析システムの開発と運用や、水球競技選手の水中パフォーマンスを定量評価するための牽引パワー測定に取り組んでいます。
大石美佳	女性の生涯発達をテーマに、個としての発達と他者との関係性の発達の視点から、ひとりを受容し、人とのつながりを形成する生き方について考えています。
大河原典子	平面絵画の制作を基盤として、幼稚園小学校での造形活動の指導法や図工科目におけるICT活用の新しい可能性、色彩心理を研究しています。
太田一郎	実社会で通用する英語プレゼンテーション力を念頭に入れ、学生の実践・発表を通して、効果的な英語表現技法の研究を行っています。
太田敬子	保育の場や社会的養育のもとで育つ子どもたちと共にある保護者、保育者の養育力や保育力の課題やあり方について調査研究しています。
大竹奈穂子	和文化を現代に生かし、日本人の礼の心、慎みの心、相手を大切にすることを伝えること。女性がキャリアを構築し働き続けるためのマインドや職務スキルを支援する。
大塚俊明	小学校社会科授業における「生きて働く」知識の形成について検討しています。子どもたちの発言を組織化する教師の指導性がポイントになる。
大中佳子	大量調理の主力機器を用いて調理し、機器の違いや調理法の違いによる食品の物性、味、おいしさの違いについて研究し、給食への応用を検討しています。
大村正史	食物繊維の一種であるレジスタントスターチを用いた高食物繊維食品、低糖質食品の研究、および食後血糖値抑制効果、コレステロール値低減効果などの研究。
岡田聡	ドイツの哲学者、カール・ヤスパースを中心に、20世紀のプロテスタント思想史において、哲学とキリスト教や神学のかかわりについて考えています。
小国美也子	小児の発達障害（特にASD及びADHD）の心理社会的対応や薬物療法を含めた治療的介入の効果、リエゾンの在り方、病理などに関する研究をしている。
落合由美	がん患者の栄養管理における「おいしく食べるための身体機能」の障がいへの対応に関するがん診療連携拠点病院調査を実施し、栄養管理実態の問題点を抽出。





カ行	
影山晴秋	食べることは健康につながるとされている。食行動に影響する摂食調節ペプチドが臓器の働きに及ぼす作用を研究中。臓器の機能を改善それとも悪化させるのか？
春日美奈子	子どもの問題行動は病める社会の反射鏡。少年を犯罪に走らせないためには何が重要なのか、更生の方策は何かについて検討。非行のメカニズムとは。
勝木茂	小学校内における教職員一人一人の様々な能力を全体化し、日々の授業改善と人材育成に結び付ける研修の在り方について。
金子智昭	保育科学生から現職者を対象に、保育者の専門性を育むための授業、実習、研修等について、主に教育心理学の動機づけ理論に基づき実証的に検討しています。
河合孝昭	「人間には自由があるのか」、「感情と理性はどのような関係にあるのか」、等々の哲学的問題をスピノザなどの思想を手がかりにして研究しています。
河内公恵	研究テーマは「食品の香りと嗜好の関係の解明」です。大量調理施設で提供する食事の嗜好性向上を目的に、調理中の香気成分変化の研究を行っています。
神林信之	中学や高校での数学を深く学ぶには「数学的知識の再体系化」が必要です。数学的知識の再体系化を促す原理や方法について30年ほど研究しています。
木下博勝	アンチエイジング、特に消化管が加齢に及ぼす影響について。腸内細菌がエイジングに及ぼす関係性を明らかにする。
桐生直幸	海外の教育事情を含めて、小・中・高の英語教育研究に幅広く関わってきました。課題解決型活動、言語活動、ICTを活用した指導、教科書分析、教員養成など。
小泉裕子	研修では保育間の同僚性、幼保小連携、ヴィジブルな保育記録がテーマ。子育て支援ママバカレッジ、潜在保育者プログラム、放課後かまくらっ子の推進。
幸喜健	研究分野：保育学、健康・スポーツ科学。現在は表現活動の中で子どもが主体性・創造性を発揮していくプロセスについて保育現場と連携して研究しています。
小島淳子	学校教育活動等におけるICTの効果的な活用方法、および児童・生徒の学びを心理的な側面から支えていくための理論と方法などを実践的に検討しています。
小藤俊樹	教育活動の質の向上を図るためにはどのような学校経営が良いのか、また、どのようなカリキュラム・マネジメントが良いのか、について検討しています。
小林博子	臨床発達心理学の視点から保育現場における子どもの発達支援や食育についての検討をしています。子どものすこやかな発達のために私たちはどう支援をするか。
小林保子	重い障がいがある子等、特別なニーズのある子の発達支援と家族支援について家族QOLの視点から研究しています。さて家族一人ひとりを大切にしたい支援とは？
近藤奈々絵	性別を考慮した上で病気の適切な診断と治療を行う性差医学を女性外来で実践中。外来おすすめの、大豆分解産物で女性ホルモン類似物質のエクオールを研究。



サ行	
齋木信也	特別支援学校教員養成課程の障害児教育指導法を担当しています。聴覚障害児の日本語獲得や手話の活用と学習指導に関する研究を行なっています。
齋藤さゆり	給食施設で提供する食事の品質について、調理特性や衛生面、作業効率を考慮し検討中。学校給食や食育に関する調査、レシピ開発についても取り組んでいます。
齊藤純	小学校の新1年生が入学して生き生きとした小学校生活を送ることができるようにするためには、初期のカリキュラムはどうあるべきかを研究しています。
榎原久子	①産前産後と0～2歳の育児期家族に向けた多職種での地域支援について研究しています ②乳児の心の動きに対する保育士の応答性について研究しています。
薩摩林淑子	中田喜直の歌曲作品の音楽的特質や魅力を主にピアノパートの観点から研究。また、多世代で楽しめるピアノ（音楽）コンサートの企画と演奏を行っています。
佐藤俊司	小学校社会科において主体的・対話的で深い学びとは、どのような授業なのかを追究し、社会科を好きになる子どもを育てるための教師の役割を考える。
佐藤雅己	障害を正しく理解し、すべての子どもに適切な指導・支援を行える教員の養成について研究。誰一人取り残さない学校・社会に向けて、私たちにできることは？
佐藤祐子	人々の食行動や食文化に関する調査・研究を行っています。具体的には、食育介入による食意識・食行動の変化、特に野菜摂取量の変化を中心に検討中です。
佐藤陽子	理科教育（化学）・生活科教育・キッチンサイエンスの研究者。教員研修、講演ならびに小学生・中学生・高校生向けの科学イベントへの出演経験も豊富です。
佐藤淑子	日本の子どもの自己表現・自尊心の発達に関する国際比較研究。また育児期の親のワーク・ライフ・バランスや祖父母からの支援が子育てに与える影響を検討。
重松絵理奈	寝不足もダメ、寝過ぎもダメ、現役臨床内科医として、糖尿病・内分泌・動脈硬化の診療経験から睡眠と食、生活習慣病に関する研究を行っています。
柴村抄織	平安時代の文学を研究しています。『源氏物語』、『和泉式部日記』の言語表現の美を追究し、清少納言、柴式部、和泉式部が活躍した平安文化を考察しています。
白子純子	包括的性教育について、児童養護施設などの職員による日常生活での子どもたちへの実践検討や、大学生を対象としたプログラム内容の検討を行っています。
杉浦学	プログラミングなどの情報技術を「誰でも楽しく」学べる仕組みづくりを研究しています。研究成果を活かしたワークショップの企画・運営もご相談ください。
杉山勇人	はねるか？とめるか？1画多いか？少ないか？漢字テストの正誤基準について、書写書道教育の立場から研究。この時代に文字を手書きする意味とは。
鈴木樹	小・中・高等学校の特別活動（学級活動、ホームルーム活動、児童会活動、生徒会活動、学校行事）が専門。ヒヤリ・ハットなどの安全教育も教えています。
鈴木利美	長年に亘る住居設計の実務経験を活かし、住居学、住生活、インテリアデザイン、或いは住居構法など、住居に関する事項を幅広く専門としています。
関川満美	保育職に従事した経験を生かし、幼児教育・保育の現場における多様な環境や、保育職を目指す学生たちの遊びの捉え等について研究を行っています。
銭谷真人	「光景（ありさま）」「小児（こども）」など、江戸時代から明治時代にかけて、人々の間で一般的に用いられていた可能性のある「あて字」についての検証。
曾我市太郎	いまを支点として、美術教育とその背景にある歴史文化、思想などを切り口に、人間にこそ宿る力、心身から生み出せるものとは何かを考え求めています。





タ行	
高須正幸	日常生活に生きづらさを感じている子どもや大人への適切な支援とはどのようなものか。福祉的な方法を反映した望ましい教育環境について検討しています。
高橋紀和子	援助者が自分らしさを失わずに「その人らしく生きる」ことに関われるのか。教育・福祉・医療分野で、人相手の仕事をする集団の問題解決について検討。
高橋ひとみ	「料理作りはどうしたら上手になる？」熟練者と初心者を比較し検討。日本の食文化の変化を研究。メニューを中心に食品会社と弁当を共同開発している。
高橋正尚	学力向上を実現する学校経営のあり方について～短期間で学力向上を目指す、組織・教育課程・教職員研修のシステムの開発～
高橋宗良	スポーツ活動中の事故防止が研究テーマです。特に水泳や水辺活動中の事故防止について研究を進めており、水に関わる不慮の事故ゼロを目指しています！
田口良子	市民・患者の視点から保健医療サービスのあり方を検討しています。病気の予防や医療に関する心理や行動の分析。
武井安彦	金融機関の財務データ等を用いた統計的実証研究を行なっています。FP技能検定に関連した授業も担当し、金融教育の実践・研究を行なっています。
田中弘樹	歌唱において、低音から高音まで響きの良い発声を実現するには、舌や口蓋、そして、声帯を含む喉頭のセッティングをどうすれば効果的かを研究しています。
谷祥子	ECサイトで服を買って失敗した経験はないですか。ECサイトにおける布の風合いに関する表現を検討しています。授業では製作を含む被服学全般を担当しています。
田村にしき	小学校音楽科教育の研究。特に、日本の伝統音楽及び郷土の伝統音楽を学校教育に効果的に取り入れる方法を考え、教材化し、教育効果の検証を行っています。
千々松愛子	人生で2番目に高い買い物と言われる生命保険から、車、マイホーム、美術品、人工衛星まで、実は幅広く奥深い「保険契約」について研究しています。
土谷知弓	保育園での食育をテーマにしております。子ども、保護者、保育士、栄養士、地域と保育園との連携による食育実践について研究を行っています。
David Chapman	ゲームやその他のゲームベースの活動を利用することで、英語教育をより効果的で楽しいものにする方法を研究しています。
遠山孝司	教員を目指す大学生や教員が教員としての力量や視点を獲得し、成長していくプロセスについて、実践についての振り返りの内容から、検討しています。
富田庸子	かけがえのない人と「つながり合う努力」をしていますか？血縁ではない家族の絆、他者と共にいる意味について、臨床発達心理学的視点から探究中。



ナ行	
中島朋紀	「子どもであること」を理解する子どもの人間学研究の立場から、子どもの存在を人間学的－現象学的に省察することを通して、教育の在り方を問う。
梨本加菜	地域の教育環境を豊かにする博物館、図書館などの社会教育施設をはじめ学校教育、教育・文化行政、青少年事業、美術教室などの役割や課題を探っています。
成川美和	人と人が何らかのアクションを起こした際にみられる現象について実践的視点、教育的視点、感情的視点等から実態、効果、変化等を分析しています。
西島大祐	野外でのチャレンジ体験を基礎とした冒険教育及び子どもの心身の成長・発達を促す自然体験活動に関する基礎的・実践的研究。
西牧眞里	養護教諭の養成～採用～研修等について研究しています。また、教育公務員としての働き方やライフキャリアも含めたキャリア形成について考えています。
野田明	英語が話せるようになるためにはどうしたよいか？「人がどのように言葉を覚えていくのか」という研究を通して、言語習得のメカニズムを研究しています。



ハ行	
橋本吉貴	学習指導要領で強調されている、作業的・体験的な数学的活動について研究。平面図形の敷き詰め等を通して、教師を目指す学生が体験できるようにしている。
長谷川輝美	若い女性のやせ過ぎは社会的課題となっています。そこで、やせ過ぎを未然に防ぐ方策を見出すために若年女性の食や生活に関する調査・研究を行っています。
初澤宣子	教科書に掲載されている文学教材の心理教育的活用やスクールカウンセラーのお便りを通した全校型支援等、学校や子どもに関わる心理学の研究をしています。
パップ晶子	ハンガリー出身の作曲家バルトークのピアノ作品の研究と演奏をしています。民俗音楽の要素を取り入れた作曲技法による生命力溢れる楽しい作品です。
花岡隆行	幼児教育・保育のカリキュラムに関する研究を行っています。特に、私自身が幼児期に受けたモンテッソーリ教育を対象に、教具に注目して研究しています。
早石周平	屋久島のサルのウンコDNAからサルの歴史、奄美・沖縄の人々のお話や統計書から人の自然利用の地理を調べ、今は身近な自然の教育利用を研究しています。
針谷夏代	アスリートの理想的なカラダ作りやパフォーマンスを最高にする栄養・食事サポートについて検討しています。
平井佳江	子どもたちに言葉の力を育みたい！小学校国語科の授業改善に取り組んでいます。豊かな言語活動を通して、分かる・楽しい授業と一緒に作りましょう！
廣田昭久	こころとからだの関係を研究しています。特に顔の生理学的反応の機能等について検討しています。なぜ人は赤面するのか、その目的は脳を冷やすため？！
福井一光	私の関心を解き明かす手助けをしてくれそうなカント、ヘーゲル、シェリング、ニーチェ、ヤスバース、原始仏教、龍樹、世親、空海他を読み込んできました。
福井文威	大学史、科学技術史、税制史、政策科学の視点から考える、日本とアメリカ社会における政府・市場・寄付者の役割とは。
福田敏人	学校現場における経験に基づいて、算数・数学科の授業における「主体的・対話的で深い学び」を目指した指導を研究しています。
藤澤文	「おもしろい」が「学び」になることを目指しています。具体的には、VR技術やメタバースを活用して、社会認識やその変化に関して実験をしています。
藤原昌太	良い保健体育の授業とはどのような授業なのか。学校の教員だけでなく、大学の研究者、各分野の専門家と協働しながら授業を計画し、それを実践・検証する。
寛川雅子	子どもの人権を保障するにはどのようななかかわりが望ましいのか、保育、養育、教育の施設を中心に研究しています。
保坂和彦	野生のチンパンジーを観察して、生物人類学の視点から人間性の起源を探る研究に従事。一方、子ども時代を送った鎌倉の自然環境を教育に活用しています。
細野美幸	子どもの類推能力の発達機序、乳児期の認知能力の発達に母子相互作用が与える影響、および、幼児期の協同活動が思考力の発達に与える影響についての検討。
本田容子	文字を「書くこと」について研究しています。国語の授業づくりや海外における書道ワークショップなどを通して文字文化の大切さを伝えています。





マ行	
牧野久実	文化の変化をモノの形から捉えようとしています。イスラエルの考古資料や琵琶湖の船など、国内外におけるフィールドワークを踏まえた研究を行っています。
松尾瑞穂	子どもたちが心身ともに健康に過ごすための方策を検討しています（例えば、乳幼児のふれあいあそび・運動あそび、幼少児の生活習慣等々を通して）。
松田広則	学校などで実施される体力テストから体力・運動能力の現状を調べ、体力の向上や維持をしていく方法を検討。また、運動をすることによる脳への効果。
宮田周平	心理療法の効果について研究。うつ病に効果的な心理療法のアプローチの検討、心理療法の効果について基礎的な心理学の研究から説明することを検討。
武藤信吾	食品の疾病の予防・改善に役立つ機能性成分や、廃棄されてしまう未利用資源などについて、機能性の評価法、高付加価値化や加工方法の研究をしています。
森本壽子	日本人が、他の国と比べても、自己肯定感（自分のことが好きという気持ち）が、かなり低いのは何故？高める為に、幼児教育の場では、何ができるのか？

ヤ行	
山口真由	昆布などに多く含まれる栄養素、ヨウ素の摂取量調査について。海藻を頻繁に食べる日本人はヨウ素摂取の過剰はあれども不足はない、という定説はいかに。
山城久弥	保育現場における子育て支援について研究しています。保育の視点から子育て家庭の現状を理解し、ソーシャルワーク技術を用いた支援方法を検討しています。
山田康輔	傷病者の栄養障害について研究しています。患者様にご協力をいただきながら、筋肉量の評価方法や栄養状態を改善させるための方法などを調べています。
山田真富	遺伝情報の実態である染色体DNAは、安定で変化しない性質と動的に変化する性質とを合わせ持つ。「生命の設計図」の二面性の分子基盤を調べている。
山成美穂	日独における社会教育（学校外教育・生涯学習）としての美術教育について調査研究を実施。また、学校教育との相互補完関係について検討中。
山本詩織	食品中に潜む微生物（特に健康危害を引き起こす食中毒起因細菌）によるリスクを明らかにし、食中毒発生を防ぐための研究をしています。
吉岡範武	文学やリベラルアーツの知識をAI時代の英語コミュニケーションにどう統合し、ビジネスやプライベートで豊かなライフスタイルを築いていけるか。
吉村拓馬	着任前は現場の心理士として、子どもの心理検査や相談、関係者支援に携わってきました。引き続き、子どもの発達を支える研究・活動に取り組んでいきます。
善本久子	教育用ICTの活用等による実践的手法で、次代に求められる柔軟でイノベティブな人材を育てる、先進的な国語教育のあり方を研究する。



ワ行	
渡辺宏章	音楽の創作・研究を行っています。特に近年は、子どもの心とふれあう音楽の創作と研究に力を注いでいます。生涯学習講座では、音楽史・音楽理論を担当。

鎌倉女子大学 大 学 院 児童学研究科児童学専攻
 家政学部 家政保健学科
 管理栄養学科
 児 童 学 部 児童学科
 子ども心理学科
 教育学部 教育学科
 鎌倉女子大学短期大学部 初等教育学科

一行研究紹介の
リーフレットは
こちらから
ダウンロードできます

教員情報については
こちらで
ご確認ください



内容についてのお問い合わせ・講座実施のご相談等は以下にご連絡ください。



鎌倉女子大学
学 術 研 究 所

〒247-8512 鎌倉市大船6丁目1番3号
 Tel : 0467-81-4002 (平日 9:00~15:00)
 Mail : kamapro@kamakura-u.ac.jp

